

1．学校関係者評価の実施について

本校では、学校運営について総合的に点検・評価し、学校運営の改善に活かすことを目的に「学校運営評価委員会」を設置し「学校運営評価」を実施しています。

2．学校関係評価委員

古川 和久氏（非常勤講師）

佐藤 暁 氏（卒業生）

事務局

鳥越 千穂（上越看護専門学校 副校長）

佐藤 勝久（上越看護専門学校 事務長代理）

3．評価対象期間

令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日

4．実施方法 公表

学校関係者評価の実施については、評価委員に「自己点検・自己評価」の結果について事務局より説明し 評価結果に対する意見をいただきました。

いただいたご意見を本報告書としてとりまとめ 今後の学校運営の改善に活かしていきます。

I. 教育理念・教育目標

【評価・改善点】

令和2年度に比べて0.18ポイント上昇している。他の項目と比べても高得点の項目である。カリキュラム改正に向けて検討を重ねる中で、理念や目標の共通認識が図られた結果であると思われる。

II. 教育目標

【評価・改善点】

令和2年度に比べて0.34ポイント上昇している。前述の通り、カリキュラム改正に向けての議論が功を奏した結果であると言える。引き続き課題の検討を進めてほしい。

III. 教育課程運営

【評価・改善点】

全体としては、令和2年に比べて0.01とわずかに上昇しているが、教員自身の教育・研究活動の充実という項目の低下が顕著である。新カリキュラム構築に時間を割かれたのが要因であると推察する。教員の資質向上は教育の根幹にも関わるため積極的な活動を求めたい。

IV. 教授・学習・評価課程

【評価・改善点】

令和2年に比べて、0.05ポイント低下。2年連続で低下している。教員の臨地実習にとられる時間の大きさが影響しているとのことである。臨地実習施設に協力を仰ぐなど、対策を講ずる必要がある。

V. 経営・管理課程

【評価・改善点】

令和2年に比べて0.07ポイント上昇しているが他の項目と比べて低評価の項目である。特に意思決定システムが不明瞭であることが大きな要因となっている。法人本部との物理的距離も遠因とはなっているとのことであるが、真の課題は何なのか検討していく必要があるのではないか。

VI 入学

【評価・改善点】

令和2年に比べて、0.22ポイント上昇している。引き続き入学希望者開拓への取り組みを続けてほしい

VII 卒業・就職・進学

【評価・改善点】

令和 2 年に比べて、0.06 ポイント上昇している。コロナ下を理由に中断している就職先訪問の早期の再開が望まれる。

VIII 地域・国際交流

【評価・改善点】

コロナ下にあって、地域での活動が困難な状況が続いているとのこと。国際看護学、災害看護学では系列の大学より講師を招へいできた点を評価する。

IX 研究

【評価・改善点】

一層の努力が望まれる。